

研究者氏名：金森 大席

調査・活動テーマ：知多半島の多様な地域資源をつなげ、地域課題に向き合う人材育成のプログラムを作る

**調査・活動の目的**

これまで私たち Team2025<sup>※1</sup>が開催してきた「ちた入会地ミーティング」や「ちた魅力再発見ツアー」では、学生と社会人など多様な主体が地域課題や活動の困りごと等を話合うことで、つながりや新たな発想を生み出し、個々の活動に変化をもたらしてきた。この取組みを発展させ、多様な地域課題に自発的に取り組める人材育成のプログラム作りにつなげることを目的とした。

※1：Team2025：2025 年の知多半島のあり方を考える市民による勉強会を行う団体

**調査や活動の取組内容および達成状況・成果内容**

①地域の課題解決のための「多様な主体が集まる協議の場」の望ましい作り方を調査するために、(1)「ちた入会地ミーティング」の実施、(2)地域活性を目指した話し合いの場の形成に関する調査を行った。

(1)「ちた入会地ミーティング」の実施

知多市・半田市・美浜町・南知多町などで以下の通り、開催した。

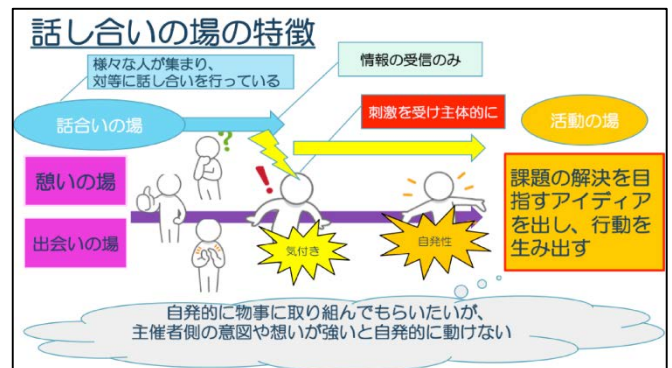
開催日 (参加人数)	話題提供団体 (話題提供者)
	主な議論テーマ
5月23日 (14名)	美浜まちラボ (伊藤拓道さん、大寄暁美さん)
	学生など若者を活動に巻き込むには
6月27日 (13名)	ちたビジョンプロジェクト (竹内綾さん)
	活動を PR し、一緒に活動する仲間を増やすには
7月18日 (14名)	南知多ビーチランドで BBQ、半田赤レンガ建物オープンイベントへの参加
	知多半島の観光施設を楽しみ交流する

10月31日 (25名)	寺子屋そのびぐらし (増田さやかさん) NPO 田舎暮らし支援センター (石黒正重さん) 九十九の里 (榊原繁雄さん)
	美浜町の暮らしと子育て
11月21日 (17名)	びすた〜り (高山博好さん、京子さん)
	農業を通じた精神障害者などの支援 (大豆の収穫等の農作業も体験)
1月24日 (10名)	ふるぼ (高山博好さん、京子さん)
	農業を通じた精神障害者などの支援 (収穫した大豆で味噌づくりを体験)
2月20日 (10名)	金森右席さん邸 (金森右席さん)
	「ちた入会地ミーティング」をきっかけとして始めた新しい暮らし

(2) 地域活性を目指した話し合いの場の形成に関する調査

- ・調査先：  
知多半田駅前地域円卓会議、地域円卓会議 in 名古屋、ざつくばらんなカフェ、545 まちばなし
- ・考察：

地域課題の解決のために多様な主体が集まって話し合う場を設けているところはたくさんあるが、地域住民の交流を主な目的にしているもの、話し合いをきっかけに実際に課題解決のためのアクションを起こしたいものなど、その目的は様々であった。目的に合った話し合いの場のデザイン (仕組みやルール作り) が肝要であると考えた。



・結論：

地域の課題解決のための「多様な主体が集まる協議の場」の望ましい作り方のポイントが以下の通り整理することができた。

<地域の課題解決のための「多様な主体が集まる協議の場」の望ましい作り方のポイント>

- ・協議の場の目的を明確にして、参加者や協力者にもきちんと目的を伝えていく。
- ・話合いの形式・参加人数・参加者層・日時・場所など事前の準備を丁寧に行う。
- ・アイスブレイクやお菓子等を準備し、雰囲気作りの工夫をする。
- ・ファシリテーターや進行者等、会を進める上で一定の役を設ける。(ただし、その人が仕切らなくてもよい。)
- ・主催者側の意図を前面に出すのではなく、参加者と共に作り上げる。(主催者も参加者のひとりとして主体的に参加する。)
- ・参加者が大切にしているものを認め合える場にする。
- ・どんな結果でも新しい価値を見つけて面白いがる。
- ・協議の場の終了後に振り返りを行い、目的に対する達成度や、今後の展開方法について検討する。協議の場の結果をきちんと積み重ねていくことが大事。

②人と人とのつながり作りを推進できる仕組みを明らかにするために、(1)「ちた魅力再発見ツーリズム」を開催した。

(1)「ちた魅力再発見ツーリズム」の開催

以下の通り、学生を含む参加者と共にツアーを企画・実施し、振り返りを行った。

開催日 (参加人数)	プログラム
7月16日 (7名)	打ち合わせ会の実施

8月29日 ～30日 (17名)	「まちをそだてる」をテーマとして、南知多町の魅力探しと課題を共に考え、体感するツーリズムを開催  実施プログラムの一例：円空彫り体験、流木アート体験、波の音を聴きながらヨガ、地域の特産品を使ったアクセサリーづくりなど
9月28日 (7名)	企画運営・参加したメンバーでアンケートを基に振り返り・検証を行った

<ツーリズム参加者の声>

- ・その土地の人たちと共にワークショップを行うことで、地元に関する深い話が聞け、歴史や地域の情報等の新たな発見があった。
- ・ワークショップを行う側もこれから行っていきたい事を挑戦するいい機会となった。
- ・楽しむ、楽しませるという関係ではなく、お互い楽しむという相互関係がある。
- ・人の魅力にふれることのできるツアーだった。



・結論：

以下の通り、仕組みづくりのためのポイントが明らかになった。

<地域の魅力再発見ツーリズムを通して、人と人とのつながり作りを推進できる仕組みづくりのためのポイント>

- ・地域資源（地域の貴重な人的財産である地域団体や市民）同士が企画運営側・参加者となることを通じてツアーに協力することで、お互いの活動を知り、お互いの活動の良さに触れることができる。  
→打ち合わせや見学等、準備段階からつながりづくりは始まっている。
- 活動団体に着目するのではなく、その活動をしている人に着目すること。
- ・ツアーを進める中で、参加者にも協力してもら

う要素を取り入れる。

→ツアー開始後は、企画運営側と地域資源側、参加者という区分けをするのではなく、皆が主体的に参加できる雰囲気づくりを行うこと。

- ・ツアーに参加した全ての人で振り返りを行うことで自身の変化やつながりを確認する。
- ・活動している人の夢や今後の展開を聞くことで継続的に参加できる機会を得る。

### ③まとめ

- ・「ちた入会地ミーティング」や「ちた魅力再発見ツーリズム」のどちらも着目しているのは「人」であった。
- ・参加者も一緒に場に参画し、つながりを持つことで、自分の新たな一面を発見し「可能性を知ること」ができた。
- ・「一緒に取り組むこと（作り上げること）」で育ちあう関係性が生まれた。

#### ■触発された人の変化・・・

A さん：引っ込み思案で、様々な場に参加することができなかったが、積極的に地域の集まる場に参加し、発言できるようになった。

B さん：仕事についてこのまま続けていてよいのかと悩む若者であったが、古民家を借り、ヤギを飼い、外国人に労働環境を提供する等、自身の行いたい事に正直に活動できるようになった。

C さん：就活に悩む学生であったが、地域で頑張る大人たちとのふれあいで、挑戦したいことをあきらめることなく挑むことができるようになった。

#### 優れた効果・成果があがった点

- ・「ちた入会地ミーティング」をきっかけに新たに地域での活動を始める人を増やすことができた。
- ・「ちた入会地ミーティング」では毎回必ず1名以上は初めての参加者がおり、地域の課題や地域資源と新たに出会う人を増やすことができた。
- ・ツアーでは Team2025 のメンバー、参加者、知多半島の住民が一体となってプログラムを作り、地域の課題を共に考えることができた。
- ・C ラボ美浜や C ラボ半田で入会地ミーティングや打合せを開催したことにより、学生が気軽に参加するきっかけとなった。

#### 委嘱期間終了後の今後の展望

今後も毎月1回程度のペースで「ちた入会地ミーティング」を開催し、地域の課題を知り、共に取り組む仲間を増やすための交流の場を作り続けていく。

これまでは毎回違う場所・話題提供者を迎えて開催してきたが、今後は過去の話題提供者をもう一度招いてその後の活動の展開などをお聞きし、中長期的に地域課題に取り組む人や団体との関係づくりを進めていく。